

1 単元名 武道（柔道）

2 単元の目標

- 相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの攻防を展開することができるようにする。 (技能)
- 柔道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。 (態度)
- 柔道の特性や成り立ち、伝統的な考え方や技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。 (知識、思考・判断)

3 単元について

(1) 教材観

柔道は、基本動作や基本となる技を身に付け、相手の動きに応じた攻防によって競い合うことができ、自分の体力や体格に応じて相手の力を利用して投げたり、押さえ込んだりすることによって、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、武道は伝統的な我が国固有の文化であり柔道においては、「自他共栄」「精力前進」といった考えから、相手を尊重する態度、公正な態度が重視され、格闘的な競技ではあるが、闘争感情を自己制御し、安全面に配慮が必要な運動でもある。

(2) 生徒の実態（男子*名、女子*名、計*名）

本学級の生徒は、「保健体育の授業が好き・楽しい」と答えた生徒が*割を越える。普段の授業においても学校全体で表現力向上のための学び合いを推進しているため、活動男女隔たりなく、活発な意見交換ができる学級である。しかし、事前アンケートでは、「痛そう、一度も見たこともないから怖い」という消極的な意見が目立った。経験者は男子*名となっており、ほぼ全員が中学校に入って初めて柔道という競技に触れる実態となっている。

(3) 指導観

本単元においては、基礎基本の徹底を図る反面、受け身の出来映えを互いに評価したり、既存の固め技を抑え込みの条件だけ提示して、技自体を初めから考えさせたりするなど、思考判断や、表現力の向上が図れる授業内容を展開し、技能に差がある生徒同士でも、積極的に話合いに参加し、安心して柔道に取り組める授業を目指す。また、簡易試合やグループ練習で培った、礼儀や行動の仕方を日常生活でも生かすことができるように指導したい。

4 単元の評価規準（学習活動に即した評価規準）

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
学習活動に即した評価規準	①用具の準備や後片付け、審判など分担した役割に◎積極的に取り組もうとしている。 ②仲間の練習相手を引き受けるなど学習課題の解決に向けて、◎安全にも留意して学習を援助しようとしている。	①技を身に付けるための運動の行い方のポイントを◎自ら見付けている。 ②練習や簡易的な試合を通して課題を発見し、◎仲間の意見と比較検討して修正しようとしている。	①正しい姿勢、組み方から崩しと体さばき、受け身を◎関連付けて行うことができる。 ②固め技の基本となる技や簡単な技の入り方が◎安定してでき、約束練習やごく簡単な試合ができる。	①柔道の特性や伝統的な考え方、基本動作について理解し、◎具体的にカードに記入している。 ②自己の課題を解決するための技能のポイントをカードに書き、◎具体的に仲間に説明している。

◎下線は十分に満足できる姿

5 指導と評価の計画（12時間扱い）

○：指導の機会 □評価の機会 ↓観察評価期間

段階	時間	主なねらい、学習活動	評価計画			
			関心意欲 態度	思考 判断	技能	知識 理解
はじめ 2時間	1	柔道の特性や学び方を知り、単元の目標を立てる。	① ↑			
	2	オリエンテーション 1 柔道の特性やねらいを確認し、学習の進め方を知る。 2 柔道の歴史や成り立ちや、基本的な技の名称や行い方を学習する。 3 礼法や所作について知り、一連の動作を行う。 4 正しい柔道着の扱い方を知る。(帯しぼりゲーム等)	↓			① (カ)
なか 1 4 時間	3	相手の動きに応じた基本動作や技を身に付けて楽しむ。	① (観)		① ↑	
	4	1 基本動作を身に付ける。(正しい姿勢と組み方など) 2 様々な受け身を身に付ける。 ・前回り受け身、後ろ受け身、横受け身など		① (カ)	↓	
	5	・受け身の形ができているか相互評価テストをする。	② ↑		① (観)	
	6	3 二人組で、進退動作や体さばき、崩しを練習する。 4 体さばきにつながる体づくり運動を行う。 学習を振り返り、学習カードに記入する。	↓			② (カ)
なか 2 4 時間	7	○ 抑え込みの条件を満たした、固め技を考える。(簡易試合をする)	② (カ)			
	⑧	○ 学習した技の技術的なポイントについて具体的に自分の言葉で学習カードを記入する。		② (カ) (観)	② ↑	
	9	1 本時のねらいと内容を確認する。 2 受け身や身体動作、体さばきや崩しを練習する。			↓	② (カ)
	10	3 抑え込みの条件を満たした固め技を自分たちで考える。 4 様々な姿勢から、固め技を練習する。 5 投げ技の基本となる技を練習する。 (膝車、支え釣り込み足、体落としなど) 6 アドバイスをもらった内容を、カードに記入する。			② (観) (カ)	
まとめ 2時間	11	○ 仲間と分担した役割に応じた活動の仕方を身に付けている。 ○ 基本動作を生かして、相手の動きに応じた技の攻防ができる。		③ (観) (カ)		
	12	1 グループで基本動作の練習を行う。 2 基本動作を使って、固め技の判定試合を行う。 3 学習カードに自分の言葉でまとめを記入する。		③ (観) (カ)		

6 本時の指導（8／12時間）

(1) 目標

- 四つんばいや腹ばいの相手を返す方法がわかり、抑え込みに入ることができるようにする。(技能)
- 相手を返す方法や抑え込みに入るときのポイントなどを、学習カードに書き出すことができるようにする。(思考・判断)

(2) 準備・資料

体育実技（教科書）、柔道着、タイマー、ストップウォッチ、ホワイトボード、学習カード、筆記用具

(3) 展開 ※本時では、「運動についての思考・判断」を主として評価する。

	学習活動・内容	指導上の手立て・評価
はじめ 5分	1 整列，あいさつ，健康観察をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が協力して迅速に場の準備ができるように声をかけるとともに，場の安全を確認する。
	2 本時のねらいを確認する。	
なか 35分	相手の動きに応じた抑え技の入り方や，返し方を見つけ，自分の考えを伝えよう。	
	3 準備運動と体ほぐしの運動を行う。 ・ジャンケンすごろく ・10秒タッチ鬼 ・ブリッジトンネル	<ul style="list-style-type: none"> ・怪我の発生率が高い種目であるため，健康観察と準備運動の徹底に努める。 ・学習課題を確認し，それぞれがねらいや目標をもって活動に取り組めるよう支援する。 ・T1とT2が互いの立ち位置を変えながら全体を観察できるように配慮する。 ・前時の活動で身に付けた「抑え込みの3つの条件」を基に，グループで助け合いながら活動することを伝える。 ・グループ内で意見が行き詰った場合には，他のグループの様子を観察しても良いことを伝える。（ジグソー学習）
	4 受け身や体さばきの復習を行う。 ・個人で形を確認しながら練習する。 ・ペアで負荷をかけながら練習する。	
	5 固め技の「入り方」をグループで考え，練習を行う。 (話し合い2分，練習5分)	
	6 固め技の「返し方」をグループで考え，練習を行う。 (話し合い2分，練習5分)	
	7 全体で意見を共有する。 ・グループで出た意見をミニボードにまとめ，全体で意見を出し合い，共有する。	
	8 固め技の「入り方」と「返し方」を身に付ける。 ・全体で考えた意見を基に，簡単な攻防（「受」が仰向けやうつぶせの姿勢からの抑え込みゲーム）を行う。	
	グループの活動を見たり，実際に動いたりして，運動の行い方のポイントを◎自ら見付けている。【思考・判断①】（観察・学習カード）	
9 整理運動をする。		
おわり 10分	10 本時の学習を振り返り，活動の反省と次時の課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのグループ活動を観察し，良いアイデアや意見を出し合っているグループを紹介し称賛しながら共有する。 ・試合を行う際には，ルールや約束事を再度確認し，安全に配慮し公正な態度で審判ができるようにする。 ・整理運動をしながら，生徒の健康状態を把握し怪我の有無を確認する。 ・礼儀作法を尊重し，心が落ち着いた状態で授業を終え，次時の学習意欲が高まるようにする。
	11 整列，あいさつをする。	